

# 国際交流センターだより vol.22

## プリンス・オブ・ソンクラ大学からの研究者 (11月～12月)

本学の学術交流協定校であるタイのプリンス・オブ・ソンクラ大学 (PSU) の研究者2名が、腫瘍内科 (11/4-11/21) および産婦人科 (12/1-12/26) において、それぞれ研修を行いました。今回の受入れは、2024年の協定締結後の初めての受入れとなりました。なお、本学からPSUへの派遣も可能です。ご関心のある方は、国際交流センターまでお問い合わせください。

### Dr. Rawikant Kamolphiwong

First of all, I am very grateful for the opportunity to participate in this exchange program. My stay at Nara Medical University was an extremely valuable and rewarding experience, both academically and personally. During the program, I was able to observe and participate in a wide range of clinical activities, including outpatient clinics, conferences, palliative care, genetic counselling, and educational sessions. These experiences allowed me to gain new perspectives on clinical practice, patient management, and multidisciplinary teamwork. The faculty members, doctors, nurses, and staff were very supportive and welcoming throughout my stay. Even when language differences existed, everyone made a genuine effort to help me understand clinical discussions, which I truly appreciate. Finally, the beautiful nature and rich culture of Nara made it a wonderful place to visit and live, further enriching my overall experience.



### がんゲノム・腫瘍内科学 教授 武田 真幸

腫瘍内科学講座として初めての短期留学生として、タイ・Prince of Songkla University から Medical Oncology のレジデントである Karn 先生を受け入れました。滞在中は、外来化学療法室、放射線治療室、腫瘍内科外来の見学などに積極的に参加していただきました。また、タイと日本における腫瘍内科診療の現状について活発な意見交換を行うことができ、非常に実りある人的交流となりました。



### Dr. Saengthian Theerakitpaisal

I had the opportunity to join an elective program at Nara Medical School Hospital, which was a very valuable experience to learn obstetrics and gynecology here. During the first two weeks, I trained in the gynecology department, participated in ovarian cancer surgery, and practiced speaking Japanese to request surgical instruments. The professors were very kind and supportive, and they even took me out to enjoy Monjayaki together.

In the last two weeks, I rotated in the obstetrics department, where I observed vaginal deliveries, caesarean sections, and the use of several instruments not available in my home hospital, such as the mini-metro. I felt happy, excited, and motivated every day. My accommodation was comfortable and convenient, and I also fulfilled my dream of visiting Kyoto, Mie, and Uji. This month has become one of my most cherished memories.



### 産婦人科学 教授 木村 文則

今年、Tiennie を受け入れられたことは産婦人科学講座としてとても幸せな経験でした。一生懸命学ぼうとする姿勢は、医療人として原点を見つめなおす機会となりました。Tiennie は、とてもかわいらしい性格で、みんなから愛され、医局員が英語で楽しそうに会話している様子を見ているととても幸せな気持ちになりました。海外に出ていこうとする医師のモチベーションにもつながったと思います。Tiennie ありがとう!



## 海外リサーチ・クラークシップ成果報告：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップ (2年次) に参加後も研究活動を継続していた本学学生の成果をご紹介します。

2023年度の海外リサーチ・クラークシップにおいて研究に取り組んだ小西菜々子さん (カナダ・アルバータ大学横田ラボ)、伊藤晴香さん (イギリス・リーズ大学アストバリーセンター) が、帰国後も引き続き研究に従事し、その成果が論文として発表されました。ご指導・ご支援を賜りました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

Journal名: Nature Communications Article title: Zinc finger domains bind low-complexity domain polymers  
Publication: 16 October 2025 <https://doi.org/10.1038/s41467-025-64382-2>

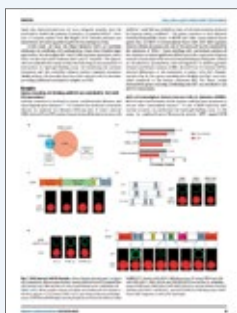
### 医学科4年生 小西 菜々子

国際学術誌 [Nature Communications] に掲載された論文 [Zinc finger domains bind low-complexity domain polymers] に、微力ながら関わらせていただきました。研究を進める中で不明点が生じた際には、未来基礎医学や脳神経内科学の先生方、ならびにテクニシャンの方々に、研究内容や実験手技についてご指導いただきました。日々の研究活動を通して、研究に必要な知識や実験技術を習得するとともに、研究の面白さを実感することもできました。私は今後も何らかの形で研究を続けていきたいと考えており、本研究に関わる中で得た経験は、他の研究テーマに取り組む際にも生かすことができると感じています。このような貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。



### 医学科4年生 伊藤 晴加

この度、上記の共著論文がジャーナルに掲載されたことを大変嬉しく思っております。帰国後、本論文に関連するZnFプロジェクトに携わらせていただきました。リサーチクラークシップの研修先で体得した手技や実際に見学した研究機器の一部が本プロジェクトと関わっており、研修前よりも各手法の強みを知ったうえで研究することができました。共著論文並びにリサーチクラークシップにおける全ての関係者の方々に心より感謝申し上げます。



### 未来基礎医学 准教授 森 英一朗

小西さんと伊藤さんは、海外リサーチから戻ってからも、授業時間外に研究室での研究活動に熱心に取り組んできました。この度、脳神経内科学・教授の杉江和馬先生のグループとの共同研究の成果が、論文としてNature Communications誌に掲載されました。この論文は、脳神経内科学の井口直彦先生と未来基礎医学の五十樓規嘉先生が中心となって、多機関の共同研究を通じて実現しました。小西さんと伊藤さんは、論文のリバイズの過程で求められた追加実験において貢献し、共著者として名を連ねました。今回の論文発表をお2人のキャリアにおける通過点として、今後も活躍されることを期待します。



## 海外リサーチ・クラークシップ派遣前研究報告会・壮行会を開催しました(11月4日・12月16日)

2026年1月5日から3月5日まで、リサーチ・クラークシップのため海外の研究室に滞在中の医学科2年生8名が、11月4日に派遣前の研究発表を行い、12月16日の壮行会では、留学への意気込みを述べました。

\*リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設での研究に参加することにより、リサーチマインドを育てることを目的としています。



派遣前研究報告会の様子

### 医学科2年生 尾崎 祐太

私はこの度カナダにあるUniversity of Albertaの横田俊文先生のラボで2か月間研究をさせていただくことになりました。研究テーマは脊髄性筋萎縮症治療のためのアンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた薬剤の開発です。私は遺伝子にアプローチする治療法の開発に興味があるのでこのテーマにとっても魅力を感じています。また、研究医を目指す私にとってこの海外リサーチクラークシップで得る経験は将来必ず生きてくる貴重なものとなるだろうと考えています。自分のために、そしてこのような貴重な機会を与えサポートして下さった多くの方々の期待にお応えするために、できるだけ多くのものを吸収してこれられるように頑張っております。



### 医学科2年生 朱 英里

派遣先である国立台湾大学消化器外科のYang教授の研究室は、アジア有数の大規模データベースを保有する世界的な研究拠点です。

私はここで、「GIST患者における他癌腫の発症リスク」を解明する臨床研究に挑みます。同大の圧倒的な症例数を用いて、日本では困難な希少がんの解析を行い、将来的なSCI論文掲載を目指します。言語の壁はあります。しかし、一つでも多くのことを学べるよう、チームの一員として能動的に議論し食らいつく覚悟です。世界レベルの研究姿勢を肌で感じて医学的にも人間的にも成長し、そして後輩の道しるべとなるよう精進してまいります。



### 医学部長 嶋 緑倫

海外リサクラは本学の研究マインド育成教育の中でも特に特色ある取り組みです。今年度は、8名の学生の皆さんが挑戦してくれることになりました。留学に先立ち、担当研究室において研究の基礎を学ぶと共に、留学先とも連携を取りながら、万全の準備を進めてこられました。壮行会の発表からも、明確な目標と強い意欲が感じられ、頼もしく思っております。研究体験に留まらず、海外の研究者との交流も深め、多くの刺激を得て帰ってこれることを期待しています。



壮行会で

### 2025年度 海外リサーチ・クラークシップ留学先 (5施設8名)

University of Alberta (🇨🇦 Canada)	尾崎 祐太	University of Michigan Medical School (🇺🇸 USA)	柴田 結心
The Ohio State University Wexner Medical Center (🇺🇸 USA)	片山 俊		田中 文康
	Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST) (🇯🇵 日本)	野原 千紗子	片山 恒
中村 春香		National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (🇹🇼 Taiwan)	朱 英里

## 令和7年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定(10月17日)

令和7年度第2回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増やし、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、30万円を上限として往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成するものです。

年に3回募集しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
脳神経外科学	診療助教	中瀬 健太
脳神経内科学	医員	西森 裕佳子
整形外科	医員	矢野 友大